

2007年4月30日

中日新聞編集担当常務
小出宜昭様

日本禁煙学会理事長
作田 学

162-0063新宿区市谷薬王寺町30-5-201

FAX 03-5360-6736

<http://www.nosmoke55.jp/>

4月29日中日新聞朝刊の記事について、重大な事実誤認が多々あると思われるので、再検討し、5月10日までにご返事をいただきたい。

中日新聞編集担当常務の記事に対する日本禁煙学会の抗議と質問

(地元大新聞が不可解なコラムを掲載した、名古屋地区禁煙タクシー乗務員の憂うつ)

アメリカのミネソタ州の名はスー族の言葉で水に映った青い空という美しい言葉である。スー族は平和を愛するインディアンで、私の知人にもいる。それを茶色に染まったタバコのみと一緒にされてはたまらない。

中日新聞常務・編集担当という肩書きから、中日新聞の正式な意見として考えるべきだろう。

この論説には多くの間違いがあるが、大きく分けて四つになる。

まず最初にタバコを吸うと、至福の精神の静寂、落ち着きが得られるという点だ。

これこそタバコのみが陥るもっとも多い誤解なのだ。これは理解しろと言っても理解するわけにはいかない。何が実際に起きているかという点、ニコチンの離脱症状に伴うイライラ感がニコチンが体に入ることによって鎮まるだけなのだ。タバコのみの方が禅の「無一物無尽蔵」の境地にあると言いたいのだろうが、事実はまったく逆である。禁煙している人の方がストレスレベルが低いと言うのは日本のみならず、国際的に明らかにされたエビデンスだ。つまり、タバコを吸わないでいれば、いつも至福の瞬間、時間が止まり、精神の静寂があるのだ。

二つめの間違いは、タクシーの車内で運転士さんや同乗者の同意を得れば迷惑をかけることはあり得ない、私的な空間であるということだ。タクシーの運転手さんに吸って良いかと尋ねれば、よほどの事がないかぎり、良いですよと言うだろう。まして常務だ。同乗した人でやめてくださいといえる人などいるはずもない。これは地位を利用してセクシュアルハラスメントをしている人と、同じような構図である。タバコの煙は単に不快というだけでなく、確実に健康被害を起こす。わずか1本をタクシー内で吸えば、厚生労働省が定めた法定基準（喫煙室の法定基準（ $150 \mu\text{g}/\text{m}^3$ ））の12倍になるのだ。タクシー乗務員のみなさんの平均年齢は60歳を超えているところが多く、心筋梗塞あるいは脳梗塞の危険な年齢になっている。この身勝手なお言葉が新聞社の常務の書かれた事とはどうしても信じられないが、それが依存症の依存症たるゆえんであろう。

三つ目の間違いは、タバコの臭いが危険ではなく迷惑ととらえている点だ。タバコの煙の主成分であるミクロン単位の微粒子は、壁・家具・服・髪の毛に付着したあと、再び空気中に遊離するため、喫煙が行われた室内・車内には数時間後でも、タバコ煙が残留している。これが「タバコくさい」状況である。タバコ煙濃度が $1 \mu\text{g}/\text{m}^3$ になるとタバコ煙臭がわかるようになり、 $4 \mu\text{g}/\text{m}^3$ になると、急性健康障害（目・鼻・のどの刺激症状、頭痛、めまい、はきけ）が発生する。タバコ煙濃度が $1 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 増加すると、24時間以内の死亡リスクが0.1%増加する。タクシーの中が「タバコくさい」という状況では、タバコ煙濃度が $10 \sim 100 \mu\text{g}/\text{m}^3$ になっているはずなので、24時間以内の死亡リスクは1~10%増加することになる。これはホルムアルデヒドやダイオキシンなどの化学物質汚染の環境基準を数百倍上回るレベルなのだ。タバコの臭いがするという状況は、迷惑というレベルどころか、タバコを吸わない人々の生存の自由を侵す問題なのである。「タバコくさい」は非喫煙者にとって、命が脅かされるサインなのだ。

四つめの間違いは、ヒトラーは禁煙運動を始めた。だから禁煙運動は悪いという幼児的な発想である。これは坊主にくければ袈裟まで憎いのいいで、ヒトラーは犬が好きで、歯も磨いた。だからといって、犬を愛すること、歯磨きをすることを忌避することにはなるまい。

それよりも、ナチスが抑制しようとしたことに対してタバコ産業は恐るべき粘り腰を示し、ついに抑制はできなかったことに驚くべきであろう。たとえば、政権の要衝（ゲーリングに1200万ライヒスマルク）に公然と賄賂を送る、経済省を味方につける、帝国タバコ研究所を大本山にする、あらたにタバコ医学会を作ろうとするなどで、その多くは今まさにタバコ産業が行っていることではないか。欧米では大量殺人を果たしているタバコ産業こそをヒトラーになぞらえているのだ。

タバコの害が明らかであることは世界中でエビデンスが集積されており、真実は一つだけで、議論の余地はないのである。タバコのみは少なくとも10年寿命が短いこと、受動喫煙禁止法が施行されたところでは、半年で11%、1年半で27%心筋梗塞の死亡あるいは新入院が減少したことは厳然とした事実なのである。

以上四点について疑義があるので再検討し、5月10日までにご返事をいただきたい。